

会場　八戸市　プライフーズスタジアム、八戸市東運動公園陸上競技場、八戸市南郷陸上競技場
十和田市　十和田市高森山球技場（天然芝）、十和田市高森山人工芝多目的グラウンド
五戸町　ひばり野公園陸上競技場
南部町　ふるさと運動公園陸上競技場

主催：公益財団法人日本スポーツ協会、文部科学省、青森県、公益財団法人日本サッカー協会、八戸市、十和田市、五戸町、南部町

八戸工業大学第二高等学校美術コース　岩本 郁香

第80回国民スポーツ大会
The 80th JAPAN GAMES

国民スポーツ大会（国スポ）は、都道府県対抗で毎年開催される国内最大のスポーツの祭典です。本県での開催は、前回のあすなろ国体(※)以来49年ぶりであり、前回同様、冬季大会と本大会を同一県で開催する「完全国スポ」です。

※2024年から「国民体育大会」の名称が「国民スポーツ大会」に変わりました。

あすなろ国体とは？

昭和52年、青森県で国体史上初となる完全国体（冬・夏・秋と3季にわたり行われる大会を同一県で実施した国体）として、第32回国民体育大会（あすなろ国体）が県内各地で華々しく開催され、本県は天皇杯を獲得しました。



■ 大会愛称

青の煌めきあおもり国スポ

青い空、青い海や湖、青い山並みなど美しく豊かな自然に恵まれた青森県で、あおもり国スポに参加する全ての人々が、交流を深め、感動を創出し、いきいきと煌めくような大会を目指します。

■ スローガン

翔けろ未来へ縄文の風に乗って

縄文時代の遺跡が数多く存在する青森から、新たな歴史と感動を全国に向けて発信し、未来につなげていきたいという願いを込めています。

■ イメージソング「翔けろ未来へ」



作詞：井元 仁江
作曲：T.Mikami
編曲：多田 慎也、島田 尚
歌唱：りんご娘
（ピンクレディ、スターキングデリシャス、はつ恋ぐりん、金星）

■ ダンス「青の煌めきダンス」



イメージソング「翔けろ未来へ」にあわせ、振付けに青森県を表現するポーズやねぶたの跳人の動き、手話による表現などを盛り込んだ、青森らしいユニバーサルデザインダンスです。

■ 公式マスコット



「アップリート君」

特徴ある県の形と、ハチマキの中央にある「りんご」で青森県を表現しています。

LINEスタンプも販売！

最新情報は公式アプリ・HP・SNSで！

公式アプリ

Download on the App Store　GET IT ON Google Play

あおもり国スポ　検索

今すぐ無料ダウンロード！

公式HP　X　Instagram　YouTube

◆目次

あいさつ
公益財団法人日本スポーツ協会　会長　遠藤　利明……2
文部科学大臣　松本　洋平……3
公益財団法人日本サッカー協会　会長　宮本　恒靖……4
歓迎のことば
青森県知事　宮下　宗一郎……5
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ八戸市実行委員会会長　八戸市長　熊谷　雄一……6
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ十和田市実行委員会会長　十和田市長　櫻田　百合子‥7
青の煌めきあおもり国スポ五戸町実行委員会会長　五戸町長　若宮　佳一……8
青の煌めきあおもり国スポ南部町実行委員会会長　南部町長　工藤　祐直……9
一般社団法人青森県サッカー協会　会長　大南　博義……10
国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程……11
国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程……12
大会役員……13～16
競技会役員……17～19
競技役員……20～21
競技補助員・競技会係員・競技会補助員……22
総則……23
実施要項……24～28
表彰式次第……29
競技日程……30
組合せ表……31～33
競技の見方……34～37
都道府県参加人数……38
参加選手・監督一覧（成年女子）……39～46
参加選手・監督一覧（少年男子）……47～58
参加選手・監督一覧（少年女子）……59～66
ブロック大会対戦結果一覧……67～71
成績一覧……72
前回までの戦績……73～74
会場地マップ……75
競技会場別配置図……76～81
大会関係機関等連絡先……82



あいさつ

公益財団法人　日本スポーツ協会
会長　遠藤利明（えんどう　としあき）

はじめに、本年７月28日に発生した令和８年熊本地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、同地震及び昨年12月８日に発生した青森県東方沖地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げ、一日も早い復興と皆様のご健康を心からお祈りいたします。

第80回国民スポーツ大会は、本年１月から２月に行われた冬季大会と併せ、「完全国スポ」として開催いたします。

第71回岩手大会以来、10年ぶりとなる「完全国スポ」を締めくくる本大会が、縄文の時代から育まれてきた歴史と文化を有し、豊かな風土に恵まれた本州最北の地、ここ青森県において開催されますことは、誠に意義深いことであります。

本年は、第25回オリンピック冬季競技大会（ミラノ・コルティナ）、サッカーFIFAワールドカップ2026、第20回アジア競技大会（愛知・名古屋）などの大規模な国際総合競技大会が開催され、多くのアスリートの目覚ましい活躍が、私たちに大きな勇気を届けています。

本大会が「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」というスローガンの通り、出場するアスリートの皆様にとって、世界へ羽ばたく契機となることを切に願っています。

さて、日本スポーツ協会では、「有識者会議」からの提言に基づき、令和７年７月、改革を具体的に進める組織として、「国スポ改革タスクフォース」を設置しました。

今後、現状と課題を分析し、国民スポーツ大会が競技性・祝祭性・社会性・文化性を掛け合わせた、「トップアスリートと地域スポーツの好循環　～人と地域の未来を創る～」という理念を具現化できる大会となるよう、検討を進めているところです。

結びに、地震からの復旧に取り組みながら、本大会の開催にあたり諸準備にご尽力いただきました　青森県をはじめ、関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



あいさつ

文部科学大臣

松本洋平（まつもとようへい）

はじめに、令和8年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。

文部科学省としては、被災された熊本県をはじめとする自治体への支援に全力を挙げて取り組んでまいります。

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ青森県において昭和100年記念 第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

青森県は、世界自然遺産の「白神山地」、四季折々の表情を見せる「八甲田山」や「岩木山」など豊かな自然の魅力にあふれ、世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」や重要無形民俗文化財である「青森のねぶた」など、自然と文化が息づく県です。

昭和52年のあすなろ国体以来49年ぶりの青森県での開催となり、「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

本大会は、史上初となる総合開会式・閉会式の屋内開催に加え、大会公式アプリによる競技情報や結果速報の提供、デジタルチケットの活用などデジタル技術の活用により、選手と観客双方に配慮した大会運営となっています。「青の煌めきあおもり国スポ」が、国民に夢と感動を与え、青森県の魅力発信と活性化につながる大会となりますことを心から願っております。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や青森県民の皆さんとの交流を通じて、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

昨年度は、東京2025世界陸上競技選手権大会、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が、今年度は、愛知・名古屋において、第20回アジア競技大会、第5回アジアパラ競技大会が開催され、国民のスポーツへの関心はますます高まっているところです。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう、関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「青の煌めきあおもり国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元青森県、会場となる各市町村をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

（令和８年７月31日現在）



あいさつ

公益財団法人　日本サッカー協会
会長　宮本恒靖（みやもとつねやす）

令和８年熊本地震により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。

国民スポーツ大会は今年、創設80周年という節目の年を迎えました。

サッカー競技は第１回大会から実施され、長年にわたって日本サッカーの発展を支えてきました。日本サッカーの成長とともに大会の在り方も見直され、少年男子の対象年齢をU-16に移行したほか、少年女子が創設されるなど、時代に応じた改革が重ねられてきました。成年の部は男女隔年で開催されており、今年は成年女子が実施される年となっています。

FIFAワールドカップ2026では数々の名勝負と感動のドラマが生まれました。世界のトップで長く活躍してきた選手たちが力を示す一方、若い選手たちの台頭も著しく、新たな時代の到来を感じさせる大会となりました。

SAMURAI BLUE（日本代表）は目標達成には至りませんでしたが、高い技術力と組織力を発揮し、世界に確かな存在感を示しました。大会で得た手応えと課題を今後の挑戦へとつなげ、さらなる高みを目指していきます。

国スポに出場する選手の皆さんも世界最高峰のサッカーに触れ、大いに刺激を受けたことでしょう。来年にはFIFA女子ワールドカップ、再来年にはオリンピックが控えています。この大会での経験をそれぞれの成長につなげ、近い将来、世界に羽ばたく選手が数多く生まれることを楽しみにしています。

選手の皆さんが日頃の力を存分に発揮し、フェアプレーとリスペクトに満ちた試合が繰り広げられることを願うとともに、本大会の成功を心より祈念します。



歓迎のことば

青森県知事　宮下宗一郎

はじめに、令和８年熊本地震によってお亡くなりになられた方々に、深く追悼の意を表しますとともに、御遺族と被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

昭和100年記念青の煌めきあおもり国スポ「第80回国民スポーツ大会」が昭和元年（1926年）から起算して満100年の節目となる年に、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、青森県において開催されますことをお喜び申し上げます。そして、全国各地からお越しくださいました選手及び関係者の皆様を、県民を代表して心から歓迎いたします。

「青の煌めきあおもり国スポ」は、史上初の完全国体である「あすなろ国体」以来49年ぶりとなる青森県での開催であり、国民体育大会から国民スポーツ大会に大会名称が変更されてから、初の“完全国スポ”となります。

「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」のスローガンのもと、美しく豊かな自然の恵みを受けながら、一万年以上にわたり縄文文化が営まれていたこの青森の地で生まれる新たな歴史と感動、そしてこれを希望ある未来へつなげていきます。

“スポーツで青森県が一つ”に、“私たち県民の心がスポーツで一つ”になる、「青森新時代」の大会を目指し、県民総参加で青森県を青の煌めき一色に染め上げ、スポーツの祭典を盛り上げたいと考えています。

選手の皆様には、日々の練習で培ったパフォーマンスを存分に発揮されますとともに、感動と温かい交流にあふれ、皆様の心に残る最高の大会となることを願っています。

結びに、今大会の開催に御尽力されました関係者の皆様に心から感謝を申し上げるとともに、今大会の成功と選手の皆様の御健闘をお祈りし、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ
八戸市実行委員会　会長
八戸市長　熊谷雄一(くまがいゆういち)

はじめに、令和８年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く平穏な日々を取り戻されますことをお祈りいたします。

青の煌(きら)めきあおもり国スポ「第80回国民スポーツ大会」サッカー競技会が開催されますことを心よりお喜び申し上げます。全国各地からここ八戸市にお越しの選手、監督、関係者の皆様を、市民を代表して歓迎いたします。

「青の煌(きら)めきあおもり国スポ」は、「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」へ名称変更後、冬季大会と本大会を同一都道府県で開催する、初の「完全国スポ」であります。本年１月末から２月初めにかけ、本市を中心に繰り広げられた冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会は、皆様の温かい御支援と御協力により成功裏に終えることができました。この熱い感動のバトンをつなぎ、本大会を更に盛り上げていくため、競技会場をはじめ、市内各所にちりばめられた歓迎装飾や47都道府県の応援のぼり旗、地元の特産品をふんだんに盛り込んだ「HACHINOHE おもてなし弁当」など、心のこもったおもてなしでお迎えできるよう、市民一丸となって準備を進めてまいりました。

各都道府県代表の皆様によって繰り広げられる熱戦と、八戸を舞台にリレーされる感動の煌(きら)めきが、多くの人々の心を動かし、青森県はもとより国内全体のスポーツ振興につながることを大いに期待しております。

八戸市は、国宝を所蔵する櫛引八幡宮やウミネコが飛び交う蕪島、日本最大級の朝市・館鼻岸壁朝市や活気あふれる横丁など、豊かな自然と歴史・文化、そして独特な食文化を誇る「食のまち」でありますので、御滞在中に、是非八戸の魅力を存分に体感し、良い思い出をお持ち帰りください。

結びに、本大会の開催に多大なる御尽力を賜りました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様の御健闘を祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ
十和田市実行委員会　会長
十和田市長　櫻　田　百合子

はじめに、令和８年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に、深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」サッカー競技会が、全国各地から選手・監督をはじめ、多くの皆様をお迎えし、ここ十和田市において盛大に開催できますことは誠に喜ばしく、心から歓迎いたします。

青森県で国民スポーツ大会が開催されるのは、第32回国民体育大会「あすなろ国体」以来49年ぶりとなります。本市では、サッカー競技のほかに、国スポの正式競技２競技、公開競技２競技、デモンストレーションスポーツ２競技と、第25回全国障害者スポーツ大会「青の煌めきあおもり障スポ」の正式競技１競技が実施されます。大会期間中に本市を訪れるすべての皆様を笑顔あふれるおもてなしでお迎えできるよう、市民一体となって準備をしてまいりました。

また、本市は、青森県の南東部に位置する、美しい自然環境と豊かな地域資源に恵まれたまちです。国の特別名勝及び天然記念物に指定されている十和田湖および奥入瀬渓流や、十和田市現代美術館を中心に、通り全体をひとつの美術館に見立てた官庁街通りなど、この機会に十和田市の魅力を存分に感じていただければ幸いです。

大会に参加される皆様におかれましては、日々の練習の成果と、培った技術を十分に発揮していただくとともに、選手同士の交流や親睦の輪を広げていただき、実り多い大会となることを期待しております。

結びに、本大会の開催にご尽力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、本大会のご成功と参加される皆様のご健闘・ご活躍を祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

青の煌(きら)めきあおもり国スポ
五戸町実行委員会　会長
五戸町長　若宮佳一(わかみやけいいち)

はじめに、令和８年熊本地震、令和８年８月千葉豪雨によってお亡くなりになられた方々に、深く追悼の意を表しますとともに、ご遺族と被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

第80回国民スポーツ大会「青の煌(きら)めきあおもり国スポ」が、ここ五戸町において開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国各地からお越しいただく選手・監督並びに大会関係者の皆様を心から歓迎申し上げます。

本年開催の第80回国民スポーツ大会「青の煌(きら)めきあおもり国スポ」は、昭和52年の第32回国民体育大会の「あすなろ国体」以来、49年ぶりに青森県での開催となります。前回大会の会場でもあります本町ひばり野公園陸上競技場を舞台に、４日間にわたりサッカー競技成年女子及び少年女子が開催され、特に少年女子は決勝戦まで行われます。前回大会と同様に心のこもったおもてなしをお届けできるよう、町民一丸となって準備を進めてまいりました。

さて、青森県の南東部に位置する五戸町は、藩政時代、三戸郡下、上北郡下28カ村の司法、行政、警察権を統治する代官所が置かれておりました。その代官所は明治初頭の２年間ほど斗南藩庁の役割を果たすなど、歴史や文化が息づくまちです。また、豊かな自然に恵まれ、本町名産の馬肉、青森倉石牛は県内外に知られており、大変美味であります。ぜひ、この機会に本町の魅力に触れていただければ幸いです。

結びに、選手の皆様方におかれましては、日頃の練習の成果を存分に発揮し健闘され、選手同士の交流と絆を深め、思い出に残る実り多き大会になることをご祈願申し上げますとともに、本大会の開催に多大なご尽力をいただきました関係者の皆様に深く感謝を申し上げ、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

青の煌めきあおもり国スポ
南部町実行委員会　会長
南部町長　工藤祐直

はじめに、令和８年熊本地震、国内各地での豪雨災害によってお亡くなりになられた方々に、深く追悼の意を表しますとともに、ご遺族と被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」サッカー競技会（少年女子）を青森県南部町で開催できますことを嬉しく思います。また、全国各地から南部町へお越しいただきました選手、監督、役員の皆様、そして応援に駆けつけてくださった多くの皆様を、南部町民を代表して心から大歓迎いたします。

この南部町は、かつて青森県東部から岩手県、秋田県の一部にまで及ぶ広大な領地を治めた「南部氏（南部藩）」の歴史が始まった地でございます。町内には、国の史跡に指定されている「聖寿寺館跡」をはじめ、幾多の歴史の息吹が今なお色濃く残されております。そして、温もりのある「南部弁」の響きや、この地に息づく伝統芸能、そして人々の実直で温かい気質。これらはすべて、800年以上の時を超えて受け継がれてきた「南部藩発祥の地」としての誇りと絆から生まれたものです。

また、この豊かな歴史が育んだ大地は、現代において四季折々の味覚が実る「果樹王国」となり、グリーンツーリズムの先駆者として培われた「おもてなしの心」は、今も町民一人ひとりの胸に深く根ざしております。

皆様には、本大会を通じて実りある時間を過ごしていただくとともに、ぜひこの機会に、我が町の豊かな自然、歴史、そして美味しい味覚を五感で堪能していただければ幸いです。

さて、６・７月に開催されました「北中米ワールドカップ」の圧倒的な熱狂は記憶に新しいところであります。限界に挑むアスリートたちの姿に沸き立ち、国境を越えて人々が一つになるスポーツの素晴らしさを誰もが実感した記念すべき年に、ここ南部町において、未来の日本代表や世界を見据える皆様をお迎えし、国スポという国内最高峰の舞台を共に創り上げることができますことは、この上ない喜びであります。

結びに、各ブロックの厳しい予選を勝ち上がり、栄えある郷土の代表として出場される選手の皆様におかれましては、日頃の練習の成果を存分に発揮され、観覧される多くの皆様を魅了していただけるものと期待しています。そして、本大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様のご健闘を祈念申し上げまして、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

一般社団法人　青森県サッカー協会
会長　大南博義（おおみなみひろよし）

はじめに、令和８年熊本地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早く安心した日常を取り戻されますこと、心よりお祈り申し上げます。

第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」サッカー競技会が、全国のブロック予選を勝ち抜いたチームの皆様をお迎えし、八戸市、十和田市、五戸町、南部町の４市町を会場に開催できますことに深く感謝申し上げますと共に、心より歓迎いたします。

さて、FIFAワールドカップ2026でのSAMURAI BLUE（日本代表）の国を背負って戦う姿に感動を覚えた人も多いと思います。ワールドカップ効果もありサッカーに対する関心が非常に高まっている中、本大会が開催されますことは青森県サッカー協会にとりましても大変意義深く、喜ばしいことと思っております。

厳しい予選を勝ち抜き都道府県の代表として出場される成年女子16チーム、少年男子24チーム、少年女子16チームの選手の皆様には、郷土の誇りと本大会に賭ける熱い思いを胸に、これまで積み重ねてこられたトレーニングの成果を存分に発揮され、多くの人々に感動を与えるフェアでリスペクトに満ちた素晴らしい試合を見せていただけますことを期待しております。

また、選手及びチームスタッフの皆様が、本大会への出場を契機として活躍の場を広げるとともに、試合を通じてお互いの健闘をたたえ合いながら絆を深め、全ての人にとって思い出に残る素晴らしい大会となりますことを願っております。

結びに、本大会の開催にあたりご尽力いただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、選手の皆様のご健闘と今後益々のご活躍を祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。



天皇杯　　皇后杯

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

第１条　国民スポーツ大会開催基準要項第 11 項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第１位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第３条　天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1)　信託会社又は確実な金庫に保管する。

(2)　破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

(3)　公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第４条　本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附　則　本規程は、昭和 41 年４月 １日制定
昭和 45 年１月 22 日一部改定
昭和 48 年７月 10 日一部改定
昭和 54 年５月 ９日一部改定
平成 17 年６月 16 日一部改定
平成 22 年３月 17 日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成 23 年４月１日）から施行する。

平成 30 年４月 １日一部改定
令和 ６年１月 １日一部改定



大会会長トロフィー

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

第１条　国民スポーツ大会開催基準要項第 11 項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー(以下「大会会長トロフィー」という。)は、正式競技別男女総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第３条　大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1)　責任をもって保管する。

(2)　破損、紛失等の場合は当該都道府県の責任とする。

(3)　優勝の刻印を次回大会までに行なうものとする。ただし、第１条第２項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。

(4)　公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第４条　本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附　則　本規程は、昭和 41 年４月　１日制定
昭和 45 年１月 22 日一部改定
昭和 48 年７月 10 日一部改定
昭和 54 年５月　９日一部改定
平成 17 年６月 16 日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成 23 年４月１日）から施行する。
平成 30 年４月　１日一部改定
令和　６年１月　１日一部改定

大 会 役 員

2026年7月31日現在
（順不同・敬称略）

名誉会長	松本洋平			
会長	遠藤利明			
副会長	益子直美	田中不二夫	三宮恵利子	森岡 裕策
	河合純一	宮下宗一郎		
顧問	森 喜朗	安西孝之	岡崎助一	越川 均
	坂元 要	勝田 隆	飯塚 悟	池田めぐみ
	石井砂織	植田 実	浦美奈子	笠師久美子
	鹿島丈博	木平芳定	工藤保子	久保正美
	小寺 洋	櫻井由香	中嶋 実	橋本聖子
	村松さやか	室伏由佳	湯川和之	吉岡成子
	久保直生	藤田裕司	藤原 誠	室城信之
	金子日出澄	貝瀬智洋	森 晃	土橋登志久
	石丸元国	多氣洋平	井﨑洋志	鬼頭有紀子
	長谷川洋子	吉田長寿	齋木尚子	多賀恒雄
	安藤 淳	上治丈太郎	湧永寛仁	三宅秀一郎
	佐藤健司	馬場美香	堺 充廣	南 和文
	宮永美寿津	千田健一	中里壮也	岡本友章
	大野 淳	永谷喜一郎	田村恒彦	蒔田 実
	山﨑勝洋	浅見敬子	山口徹正	田中伸周
	村田利衛	建部彰弘	市野保己	丸石 博
	中村ゆり子	齋藤良太郎	谷田部和彦	木村博美
	井上 弘	今川啓一	近藤重和	池谷正成
	大澤明美	古城資久	小野賢二	園山和夫
	中山俊行	田中 徹	知念かおる	出口弘之
	田邊哲人	城門政文	前川 恵	園田義宜
	布村幸彦	川原元則	生島典明	大沢陽子
	谷藤節雄	中村伸彦	千葉玲佳	奥山雅信
	酒井祐一	藤田知巳	北條俊明	田子昌之
	新井 彰	山﨑成夫	塩見清仁	田名部高雄
	井出 仁	今西博一	中村宏平	新保 暢
	森山喜博	横山幹夫	花崎武彦	髙橋繁浩
	山本健次	増田和伯	藤堂 寛	山本誠三
	松本恭幸	東 直也	奥田 晃	横尾英治
	小西慎太郎	近藤一幸	堂本ひさ美	河村祐一

	渡邊浩三	田中稔	高岡晃仁	青木章泰
	城戸英敏	小柳勝彦	辛木秀子	宮成康蔵
	若林繁幸	岩元幸成	平良朝治	藤原正樹
	新宮領毅	川上隆弘	佐藤廣子	奈良隆
	小菅司	宇津木妙子	菊幸一	小林久美
	寺澤正孝	山口純子	中村裕之	小林茂樹
	清水真人	福田かおる	増子宏	矢野和彦
	柿田恭良	茂里毅	浅野敦行	津島淳
	神田潤一	木村次郎	江渡聡徳	田名部匡代
	福士珠美	山中泉	工藤慎康	風張知子
	横町俊明	西秀記	濱舘豊光	尾﨑寿一
	鈴木進	三本木温	有森裕子	鈴木大地
	宮本恒靖	深澤祐二	坂田東一	三須和泰
	川合俊一	藤田直志	島田慎二	富山英明
	馬場益弘	砂岡良治	金丸恭文	安道光二
	河田正也	豊田章男	後藤正幸	中村真一
	河合満	村井満	真砂威	土田雅人
	町田幸男	大野正次	世耕弘成	笹川善弘
	納冨中	土居淳	久保素子	丹羽秀樹
	津賀一宏	岩城光英	北村聡	荒川裕生
	達増拓也	鶴田有司	吉村美栄子	北村清士
	大井川和彦	福田富一	遠藤祐司	大野元裕
	熊谷俊人	小谷実可子	岡田伸浩	花角英世
	新田八朗	山野之義	石田嵩人	髙野剛
	阿部守一	田口義隆	中谷多加二	大村秀章
	伊藤歳恭	高橋祥二郎	西脇隆俊	髙橋知史
	斎藤元彦	福谷健夫	宮﨑泉	林昭男
	丸山達也	越宗孝昌	迫谷章	村岡嗣政
	後藤田正純	綾田裕次郎	大塚岩男	今城純子
	服部誠太郎	宮原耕史	平田研	木村敬
	麻生益直	日隈俊郎	塩田康一	玉城デニー
参与	籾井圭子	大杉住子	中村宇一	廣田美香
	阿部祐己	安藤晴美	伊吹信一	井本貴之
	蛯沢正勝	大崎光明	大澤祥宏	大澤敏彦
	大平陽子	小笠原大佑	川村悟	菊池勲
	北向由樹	木明和人	櫛引ユキ子	工藤兼光
	工藤悠平	後藤清安	小比類巻正規	今博

	斉藤孝昭	齊藤爾	鹿内博	清水悦郎
	高橋修一	高畑紀子	田中順造	田名部定男
	田端深雪	鶴賀谷貴	寺田達也	夏坂修
	夏堀嘉一郎	夏堀浩一	成田陽光	花田栄介
	福士直治	丸井裕	三橋一三	森内之保留
	山田知	山谷清文	吉田ゆかり	吉俣洋
	和田寛司	奥田忠雄	大田圭	平間恵美
	安田博	松本史晴	中野博之	久慈美穂
	三浦猛史	千葉雄文	後村文子	細谷健司
	舩木久義	豊島信幸	秋野桂	上沢謙一
	工藤泰正	栗林豊	新屋孝文	簗田潮
	佐藤剛	安田貴司	東山国男	大山力
	山本恒太	津田英一	米内正明	小山内修
	堤静子	橋場保人	目澤伸一	山口龍城
	高杉勝彦	工藤裕司	中居敬子	川浪泰浩
	宮野孝晶	田村琢哉	中川伸吾	里村智彦
	佐藤忠全	倉橋純造	一戸善正	櫛引利貞
	七尾嘉信	佐藤健一	岡島裕史	工藤智久
	三上千春	高木伸也	高杉金之助	小関幸一
	外崎れい子			
委員長	山本浩			
副委員長	岩田史昭	石田裕美	出﨑和夫	
総務委員	松永敬子	三宅宏実	稲垣公雄	笠野英弘
	関口直樹	菅原哲朗	田﨑博道	松田基子
	三ヶ田礼一	山澤文裕	福田一稔	宇野武
	二宮智浩	小竹喜也	田内慎也	秋田勝行
	中尾慶一郎	下條伸彦	江橋千晴	宮本忠
	小澤大樹	小笠原忠儀	髙井和紀	
委員	平野了	髙橋聖一	永井雅史	神山康洋
	福士幸洋	栗原崇	竹ノ脇智秋	鈴木克宜
	葛西玲広	濱野勉	寺澤淳	黒川重男
	舟喜信生	福島亮一	中梶秀則	堀越浩
	加藤憲二	宮川良輔	鈴木章広	川口巖
	山口俊昭	岡泉茂	朝倉康善	木塚鉄也
	平井宏治	濱﨑滿	岸川剛之	西原斗司男
	山口鉄正	菅原正幸	伊東毅嗣	長南哲生
	衛藤敬輔	上久保僚	中段亜由美	鈴木信吾

内田淳二
吉田由美子
川口雅三
政岡航大
寺垣佑介
町屋毅博
白幡博久
幸田和洋
三浦理
福居久志
林剛史
中野真吾
小林悟
松本綾子
高田孝行
尾鷲一成
都甲尚生
遠藤信哉
岡崎正彦
杉田聡
碓井稔
沼田守弘
髙岡晃仁
荒木健治
丹羽浩彰

関根明子
杉本好二
田邊賢一
坊百花
柿﨑繁信
山本高史
田畑幸浩
大貫大輔
舟木雅美
三武紀子
稲葉晴伸
佐々木智也
中嶋純也
中田健治
日野剛
川端利行
山元尚史
角屋憲正
角田真司
塩田憲司
武田知己
田部長右衛門
葛目憲昭
平江公一

中山二三男
國重さゆり
山口剛
井澤貫太
橋口真夕
松橋伸哉
加藤雄樹
小池則之
阿部哲也
長坂嘉久
森島哲也
木原哲也
前田康博
石津雅之
前田義朗
濱本昌宏
黒田裕史
千葉雅也
加藤木紳克
藤丸伸和
井上哲
松井守
寺崎雅巳
黒木淳一郎

﨑村尚人
髙梨治紀
富澤佑也
田口雅紀
田中遥太
長谷川光昭
小林健也
今井隆元
片岡英史
井澤克行
和田吉史
越智敏文
松本守正
加藤泰
笠井康行
吉野賢一郎
髙野瑞洋
菅間裕晃
柄澤宏之
河野公紀
今後元彦
吉岡直彦
田島祥嗣
城間敏生

競技会役員

（順不同・敬称略）

名誉会長	熊谷雄一	櫻田百合子	若宮佳一	工藤祐直
会長	宮本恒靖			
副会長	岡田武史	野々村芳和	西原一将	米内正明
	古舘仁	松尾博之	夏堀善信	大南博義
	工藤俊憲	力石清司	櫻井篤史	坂本康浩
顧問	村井満	岩上和道	林義規	越山賢一
	森亮	庄司伸一	安井誠悦	桂木聖彦
	青田由広	大和田健	鈴木武明	坂田和文
	鈴木茂	片岡道夫	植田昌利	河野雅道
	松坂浩一	マキナリー浩子	柄沢正三	山本和成
	北野孝一	仲倉典克	大榎克己	佐藤元英
	岩間弘	尾関圭司	中島浩之	乗本敏宏
	永島昭浩	高砂佳世	堀井巖	川合廣征
	池田洋二	金築弘	池田直寛	宗政潤一郎
	二木正典	荒岡成志	矢間雅司	堀内久勝
	秋森学	井手春芳	本村正信	殿村育生
	今田周作	二階堂雅士	齊藤了介	川畑佑樹
	田平敬志	藤川優里	石橋義雄	川村浩昭
	工藤正孝	齋藤信哉	江渡準悦	澤田尚
	高橋力也			
参与	岡田英	土嶺直樹	長谷川ひろゆき	山之内悠
	前田由美	吉田洸龍	田名部裕美	高橋正人
	間盛仁	久保百恵	苫米地あつ子	三浦博司
	石橋充志	中村益則	日當正男	小屋敷孝
	壬生八十博	上条幸哉	森園秀一	豊田美好
	山名文世	伊藤圓子	立花敬之	坂本美洋
	五戸定博	寺地則行	吉田淳一	山端博
	戸来伝	小川洋平	工藤正廣	堰野端展雄
	江渡信貴	久慈年和	斉藤重美	氣田量子
	小笠原良子	中尾利香	中嶋秀一	今泉信明
	山田洋子	笹渕峰尚	竹島直樹	太田正幸
	小山田剛士	山端美樹子	松山泰治	佐々木喜克
	髙奥浩明	柏田匡智	川﨑七洋	鈴木隆也
	大久保和夫	豊田孝夫	中川原賢治	三浦專治郎
	三浦俊哉	西野耕太郎	川守田稔	馬場又彦

根市勲	中舘文雄	八木田憲司	山田賢司
滝田勉	坂本典男	久保利樹	松本啓吾
工藤愛	小橋昭裕	夏堀剛充	沼畑俊吉
西山康巳	小澤直子	久保千恵子	福井武久
坂本稔	深瀬郁子	小笠原拓司	中村豊
三浦浩	柿本孝志	中山竹千代	小泉等
川守田良修	西舘たか	小萩沢公子	立花才
佐々木郁夫	石田慎一郎	田村和久	久保田敏彦
淡路徹	佐々木若子	宮崎典子	藤田耕次
蛯名定信	笹森祥子	長畑孝子	米田宏幸
米田義広	渡邉一史	川村斉	浦田陽子
木村富士夫	田名部和彦	橋場保人	小笠原嘉
太田薫	櫻田一雅	加賀教子	井上悦子
藤村誠	小渡一志	髙橋亮三	高森直樹
中野薫	谷内良玄	夏堀永吉	嵯峨弘章
熊谷誠二	淡路浩志	村山通久	橋本昭一
石澤陽	附田眞輔	松橋満幸	下遠良子
安達清幸	高橋学	小笠原修	奥寺良之
武輪俊彦	佐々木伸夫	荒川繁信	東山国男
今泉湧水	石黒一之	大宮仁	山口龍城
川浪泰浩	直町成二	長畑清二	米田良雄
大瀬良一	小沢千枝子	野坂佳孝	小倉民生
岩井友之	小笠原理高	小嶋泰彦	市川亜紀子
升澤博也	升元訓子	江渡恵美	池田陽子
下山勝	瀧内潤	田中宏一	工藤智久
高見亜希子	櫻田善也	櫻田修一郎	石渡敦志
米田清治	太田博之	出町智	髙橋敏
境寛	村越啓一	倉橋隆穂	西舘昌男
菅谷信也	高森正博	夏堀文孝	下井田耕一
蹴揚福男	川村一城	甲地智弘	東直樹
石田哲平	野々上隆	上田雄大	田中真
石原静子	阿保秀三	伊藤力喜雄	三浦豊
三戸一史	高橋弘一	相馬正栄	伊藤順悦
久保雅喜	里村英博	廣谷滋	坂上孝哉
鈴木裕之	千葉洋一	嶋脇洋三	田名部匡代
高田重利	金澤政男	大髙承治	大西眞一
川村秀夫	菊田幸雄	大西丈夫	原博実

	北澤豪	日比野克彦	鈴木寛	岡島喜久子
	須原清貴	池田浩	三好豊	竹田孝
	今井純子	高田春奈		
委員長	湯川和之			
副委員長	山本芳弘	成田聖徳	大沢直明	西塚章
	寺地一美	長根喜一	三上幸人	
委員	山口香	西本強	田中琢二	小澤隆生
	須藤実和	井原多美	西澤和剛	福田雅
	和田敬	生田圭	山田彰宏	中田純司
	佐々木一範	和田真	町田正子	種市穂
	相馬真以	鈴木千尋	村上祐治	山口祝一
	工藤英樹	工藤康博	松井丈佳	羽立俊士
	田中護	石倉佳子	佐藤隆司	天谷喜晃
	桜田由紀夫	中村貢	中野渡泰介	佐々木万悦
	石田博信	大西登	木村信裕	石塚英俊
	小柴一良	加藤聡	西村幸治郎	西澤寿明
	田名部靖高	鎌田視久	山﨑睦子	千葉誠
	野澤紀美子	吉成幸三	新山奈緒子	野田健治
	村上三郎	打谷桂子		

競　技　役　員

（順不同・敬称略）

競技委員長	蔵森紀昭			
競技副委員長	三上幸人	佐々木一範	齋藤康弘	相馬真以
マッチコミッショナー	北郷光宏	宮本正紀	岡野宇広	佐野元康
	山口裕行	舘岡孝弘	石黒忠利	秋山康之
	阿部岩雄	藤田英明	金澤聡	鈴木勇
	成田憲一	竹沢茂	松本守人	佐藤光雄
	髙橋美保	大井川恵一	福田克行	中村雅
	大平俊明	早坂和人	山下浩司	御子貝和亮
マッチコミッショナー係	齋藤康弘	小田幸司	松澤盛史	嶋脇洋三
	下斗米孝志	簗場武見	田中護	小田敏明
	和山雅幸	植村金造	沢目秀樹	桜田由紀夫
	佐々木衛	菊地弘一	工藤多加志	品川信道
	工藤賦昭			
会場長	和田真	嶋脇洋三	下斗米孝志	天谷喜晃
	櫻田敏彦	石渡敦志	長根喜一	
副会場長	寺地一美	渡邉紀章	滝田久仁	田中大一
	大山雄一郎	川崎浩治	出町智	
審判委員長	扇谷健司			
審判副委員長	山岸佐知子	種市穂		
インストラクター	髙橋寿	平石暁史	阿久津憲仁	平井裕雄
	渡辺典子	桐原純子		
審判員	萩尾麻衣子	海野晴香	千蔵るり	小野田伊佐子
	岩田紗瑛	大村琴美	荒川里実	別府朋香
	國師えりな	中本早紀	千葉美咲	勝又美沙希
	平塚将哲	高橋睦	鈴木辰汰	佐藤宥
	大塚一輝	礪波壮一朗	伊藤唯翔	久保沢透大
	斎藤雅也	加藤優太	小林顕太	宮崎樹
	三好柊真	長友崇磨	岩佐莉奈	勝又彩優希
	加瀬田彩華	三田沙織	堀田姫花	杵築歩那
	小林彩乃	野母光	佐野颯亮	遠藤尊流
	千田慶祐	岩佐丈	佐藤泰良	髙橋隼哉
	吉田雄大	熊田颯	飯井咲希恵	村山晴香
	千葉麻莉乃	菅野理	神あかり	押山由衣
	新屋輝長	蛯名一樹	有川輝優	寺西広太
	川﨑矢旺	稲津裕也	板谷恭平	林可人
	山崎智貴	山田一騎	菅原陽平	袴田健
	太田雄基	山崎克彦	荒川千紘	櫻田早苗
	種市裕孝	袴田有斗	下山裕	佐々木健太
	田中日出紀	堀江拓矢		
審判運営委員長	川村聖一			
審判運営副委員長	林可人			
審判運営委員	見付和昭	古舘学	鈴木洋一	木村満
	中川俊光	槻館慎哉	漆畑成子	荒川千紘
	志田志津香	櫻田早苗	小林孝広	山崎克彦
	三浦欣也	下山裕	鳥谷部光祥	鳥谷部保治
	太田寛	西塚努	若宮一馬	前田泰宏
	三浦一彦			

規律委員長	扇谷健司			
規律委員	吉村政弘	永井雅史		
医事委員長	沼沢拓也			
技術運営担当委員長	佐々木一範			
技術運営担当委員	樋口修平	中村慎士	戸間替統世	類地将吾
	田中舘章文	小野健朗	寺沢道信	山田高敬
	工藤泰弘	高橋祐貴	竹ヶ原寿啓	十枝内和喜
記録報道委員長	中田純司			
記録報道委員	鈴木俊博	田谷訓史	山西祐介	石戸谷幸平
	北上守	黒田健太郎	帯野宏	坂下公輝
	秋山新吾	阿保浩四郎	山形謙輔	佐々木瑠生
	工藤勝哉	福士敬之	磯辺智哉	吉田茂
	澁谷圭治	田川雄基	下山忍	河原木洋
	中野渡泰介	沢尻秀裕	豊川晃良	岩舘光
	櫻田尚也	小田川周平	工藤輝	平山順基
	泉山寛之	真田龍一	柴崎健太郎	舘田剛志
	三戸一史	渋谷健太	小笠原希	山田智士
	久保龍	成田雅聡	佐々木裕仁	野月俊
	小笠原裕也	諏訪内健太	藤田康平	立花隆浩
	類家和哉	鳥谷部剛	三浦佑太	工藤智廣
	三浦和也	石塚英俊	米内聡	福士一毅
	富岡勝栄	河合大匡	山田諒	石鉢学
	栃木孝文	二唐寛		
総務委員長(本部)	石原静子			
総務副委員長(本部)	石倉佳子			
総務委員(本部)	島中牧子	市川友一	伊藤さとみ	吉田るり子
	太田哲	橋本晴信	簗場由美子	工藤悦子
	大山和歌子			
会場総務委員	畑中孝太	山本真也	河合大匡	柿崎洋祐
	鳴海亮	岩谷圭峻	長谷川佳代子	二唐寛
	田嶋善博	木村慎一	風張銀一	滝田久仁
	佐藤基治	山下寿弥	久保田公将	玉懸悟朗
	荒谷博文	黒田健太郎	田中昌勝	柾谷泰満
	久保市広幸	株督純	櫻田悟	佐々木徳幸
	小倉憲和	山田智士	沼岡樹	奥沢淳
	下山宗杜	丹野博晶	田名邊諒大	佐々木裕仁
	工藤輝	小川向希	田中拓也	一戸大輔
	山端友貴	本多千浩	五戸琳久	小山田和喜
	鈴木広大	武山慶紀	大久保和也	田中舘一騎
	鳥谷部大地	若松明史	境真宏	竹井啓介
	西舘俊之	川村賢治	坂本真二	工藤耕太
	大久保孝志	稲津敬	佐々木幸夫	木村大翔
放送委員	佐藤基治	山下寿弥	株督純	島谷仁寿
	丹野博晶	鈴木広大	下平幸司	鳥谷部慎也
	岩織祥太			
得点計時委員	齋藤正浩	荒川良	山下寿弥	株督純
	下平幸司	工藤輝	野月俊	田名邊諒大
	沼田隆志	船場真柊	久保田公将	
総合成績計算委員長	永井雅史			
総合成績計算委員	中田純司			

競　技　補　助　員

（順不同・敬称略）

協　力　学　校	青森県立八戸高等学校
	青森県立八戸東高等学校
	青森県立八戸北高等学校
	青森県立八戸西高等学校
	青森県立八戸工業高等学校
	八戸学院光星高等学校
	八戸聖ウルスラ学院高等学校
	向陵高等学校
	八戸工業大学第一高等学校
	八戸工業大学第二高等学校
	青森県立三本木高等学校
	青森県立十和田工業高等学校
	青森県立三本木農業恵拓高等学校
	青森県立三沢高等学校
	青森県立三沢商業高等学校
	八戸学院野辺地西高等学校

競　技　会　係　員

八　戸　市	青の煌めきあおもり国スポ・障スポ八戸市実施本部員
十　和　田　市	青の煌めきあおもり国スポ・障スポ十和田市実施本部員
五　戸　町	青の煌めきあおもり国スポ五戸町実施本部員
南　部　町	青の煌めきあおもり国スポ南部町実施本部員

競　技　会　補　助　員

八　戸　市	青の煌めきあおもり国スポ・障スポ八戸市競技会運営ボランティア
十　和　田　市	青の煌めきあおもり国スポ・障スポ十和田市競技会運営ボランティア
五　戸　町	青の煌めきあおもり国スポ五戸町競技会運営ボランティア
南　部　町	青の煌めきあおもり国スポ南部町競技会運営ボランティア

◆総則

以下の二次元コードよりご覧ください。

https://aomorikokuspo2026.pref.aomori.lg.jp/kokuspo/outline/

サッカー競技　実施要項

1　期　　日　　2026年10月10日(土)から10月14日(水)まで(５日間)

種別	10月10日(土)	10月11日(日)	10月12日(月)	10月13日(火)	10月14日(水)
成年女子		1　回　戦	準々決勝	準　決　勝	3位決定戦 決　　勝
少年男子	1　回　戦	2　回　戦	準々決勝	準　決　勝	3位決定戦 決　　勝
少年女子	1　回　戦	準々決勝	準　決　勝	3位決定戦 決　　勝	

2　会　　場

十和田市（成年女子）	十和田市高森山球技場
（成年女子・少年女子）	十和田市高森山人工芝多目的グラウンド
五 戸 町（成年女子・少年女子）	ひばり野公園陸上競技場
八 戸 市（少年男子）	プライフーズスタジアム（八戸市多賀多目的運動場）
	八戸市東運動公園陸上競技場
	八戸市南郷陸上競技場
南 部 町（少年女子）	ふるさと運動公園陸上競技場

3　種別及び参加人員

種　　別	監　　督	選　　手	参加都道府県	小　　計	合　計（人）
成年女子	1	15	16	256	920
少年男子	1	16	24	408	
少年女子	1	15	16	256	

(注) 成年女子の監督は、選手を兼ねることができる。

4　競技上の規程及び方法

⑴　競技規程

ア　試合は、2026－2027公益財団法人日本サッカー協会競技規則による。

イ　各種別において、試合開始前に登録された交代要員は、再交代（交代して退いた競技者が交代要員となって再び出場可能）が認められる。

ウ　退場を命じられた選手は、本大会の次の１試合に出場することができず、それ以降の処置については本大会の規律委員会で決定する。

エ　本大会中、警告を２回受けた選手は、本大会の次の１試合に出場することができない。
なお、準決勝進出チームの選手が受けた準々決勝までの警告累積は、準決勝以降に持ち越さない。

⑵　試合の方法

ア　トーナメント方式とし、３位決定戦を行う。

イ　試合時間は70分間(前後半各35分）とし、ハーフタイムのインターバルは10分間とする。勝敗が決しないときは、１回戦から準決勝及び３位決定戦は、PK戦により、次回戦進出チーム及び３位を決定する。決勝戦は、20分間（前後半各10分間）の延長戦を行い、なお決しないときは、PK戦により、１位を決定する。

５　予選方法

⑴　予選大会を主管する各地域サッカー協会は、本大会実施要項に準じて予選大会であるブロック大会を実施し、別項に定める本大会に出場すべき代表を決定する。

⑵　各地域サッカー協会は、関係都道府県サッカー協会及びそのブロックの代表都道府県スポーツ協会と協議の上、ブロック大会開催期日、場所を決定し、その結果を速やかに公益財団法人日本サッカー協会へ報告すること。

⑶　各地域サッカー協会は、ブロック大会終了後、2026年8月28日(金)までに大会報告書を作成して、公益財団法人日本サッカー協会へ送付すること。(締切期日厳守のこと。)

⑷　ブロック大会区分及び代表チーム数は、次表のとおりとする。

ブロック名	都　道　府　県　名	成年女子	少年男子	少年女子
北海道	北海道	1	1	1
東　北	岩手、宮城、秋田、山形、福島	1	2	1
関　東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨	3	4	3
北信越	新潟、長野、富山、石川、福井	2	3	2
東　海	静岡、愛知、三重、岐阜	1	2	1
近　畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	2	3	2
中　国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1	2	1
四　国	香川、徳島、愛媛、高知	2	2	2
九　州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	2	4	2
開催県	青森	1	1	1
計		16	24	16

６　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

総則５に定めるもののほか、次による。

⑴　各都道府県の成年女子、少年男子及び少年女子の代表チームは、単独、補強又は選抜のうち、いずれかの方法により編成すること。

⑵　成年女子

ア　公益財団法人日本サッカー協会定款第50条に基づき制定された「サッカー選手の登録と移籍等に関する規則」第２条及び「フットサル選手の登録と移籍等に関する規則」第２条に定める登録選手が参加できる。

イ　2009年12月31日以前に生まれたものが参加できる。

⑶　少年男子

ア　公益財団法人日本サッカー協会定款第50条に基づき制定された「サッカー選手の登録と移籍等に関する規則」第２条及び「フットサル選手の登録と移籍等に関する規則」第２条に定める登録選手が参加できる。

イ　中学３年生を含む2012年４月１日以前に生まれたものから、2010年１月１日以降に生まれたものが参加できる。

⑷　少年女子

ア　公益財団法人日本サッカー協会定款第50条に基づき制定された「サッカー選手の登録と移籍等に関する規則」第２条及び「フットサル選手の登録と移籍等に関する規則」第２条に定める登録選手が参加できる。

イ　中学３年生を含む2012年４月１日以前に生まれたものから、2010年１月１日以降に生まれたものが参加できる。

⑸　外国籍競技者の参加

外国籍競技者の参加については総則５⑴アを適用する。

⑹　監督

チーム（全種別）の監督は､公益財団法人日本サッカー協会公認指導者ライセンスに基づく、Proライセンス、Aライセンス（日本スポーツ協会コーチ４）、Bライセンス（日本スポーツ協会コーチ３）のいずれかを有するものとする。

７　総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に順位を決定する。ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

⑴　競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競　技　得　点
成年女子 少年男子 少年女子	成年女子 少年女子	各種別とも、１位64点、２位56点、３位48点、４位40点、５位（４チーム）各20点の競技得点を与える。

⑵　参加得点

大会（ブロック大会含む）に参加した都道府県に10点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を得ながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

８　表　　彰

⑴　男女総合成績及び女子総合成績第１位から第８位までの都道府県に、表彰状を授与する。

⑵　男女総合成績第１位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。

⑶　各種別の第１位から第５位までの都道府県に、賞状を授与する。

９　参加申込方法

総則８に定めるもののほか、次による。

⑴　所定のWebページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスし、必要項目を入力の上、所属都道府県スポーツ協会を通じて 2026年９月３日(木)午後５時までに申込手続を完了すること。

⑵　締切期限以降は所定のWebページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスできなくなるので、締切期限を厳守すること。

⑶　参加申込締切後の選手・監督の変更は、疾病、傷害の場合並びに特別な場合のみ認めるものとし、その取扱いは次のとおりとする。なお、疾病、傷害以外の場合は、公益財団法人日本

サッカー協会の審議を経て変更を認めるものとする。

提出期限 （成年女子・少年男子・少年女子共通）

2026年10月７日（水） 午後２時（必着）

提 出 先

〒112-0004 東京都文京区後楽一丁目４番18号 トヨタ東京ビル

公益財団法人日本サッカー協会 競技運営部

TEL 03-3830-1809 ※以下のURLにデータをアップロードすること

https://jfa.ent.box.com/f/73107e75edce4aea8757d4517088d342

なお、所定の文書並びに医師の診断書は、提出期限までに、(写)をデータアップロードにて提出すること。また、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途、所定の手続により、参加申込情報を修正すること。

10 参加上の注意

⑴ ユニフォーム

ア 公益財団法人日本サッカー協会ユニフォーム規程による。

イ 「チーム名」として必ず都道府県名を表示すること。

ウ ユニフォームは正副２色（シャツ、ショーツ、ソックス、GK 用共）を参加申込書に記入すること。参加申込書提出後のユニフォームの変更は認めない。

エ ユニフォームへの広告表示は認めない。

⑵ 参加資格に違反したり、その他不都合な行為があった場合は、そのチームの出場を停止することがある。

11 その他

⑴ 組合せ抽選会

日 時 2026年９月４日(金) 午後２時

場 所 公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004 東京都文京区後楽一丁目４番18号 トヨタ東京ビル

⑵ 監督会議（オンライン）

(成年女子・少年男子・少年女子)

日 時 2026年10月１日(木) 午後４時

⑶ 表彰式

(少年女子)

日 時 2026年10月13日(火) 競技終了後

場 所 ひばり野公園陸上競技場

〒039-1524 青森県三戸郡五戸町大字豊間内字地蔵平１番地275

TEL 0178-62-2301 FAX 0178-62-2365

(成年女子・女子総合)

日 時 2026年10月14日(水) 競技終了後

場 所 十和田市高森山球技場

〒034-0106 青森県十和田市大字深持字梅山１番地268

TEL 0176-26-2080 FAX 0176-26-2080

（少年男子・男女総合）
日　時　　2026年10月14日（水）　競技終了後
場　所　　プライフーズスタジアム（八戸市多賀多目的運動場）
〒 039-2241 青森県八戸市大字市川町字市川後55番地 1
TEL 0178-80-7597　FAX 0178-80-7837

⑷　問合せ先

〒030-8570 青森県青森市長島一丁目 1 番 1 号
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局
（青森県国スポ・障スポ局　競技式典課　競技運営グループ担当）
TEL 017-734-9771　FAX 017-734-8015
E-mail　aomori2026kyougiunei@pref.aomori.lg.jp

（成年女子）〒034-8615 青森県十和田市西十二番町 6 番 1 号
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ十和田市実行委員会事務局
TEL 0176-58-0189
E-mail　2026kokusupo_soccer@city.towada.lg.jp

（少年男子）〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目 1 番 1 号
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ八戸市実行委員会事務局
TEL 0178-43-9569
E-mail　soccer2026@city.hachinohe.aomori.jp

（少年女子）〒039-1518 青森県三戸郡五戸町字下モ沢向 8 番地 2
青の煌めきあおもり国スポ五戸町実行委員会事務局
TEL 0178-62-7975
E-mail　kokuspo2026@town.gonohe.aomori.jp

◆表彰式次第

少年女子　表彰式	
期日	令和８年 10 月 13 日 (火) 試合終了後
場所	ひばり野公園陸上競技場
	次　　第
	選手・役員整列
1	開式通告
2	成績発表ならびに賞状授与
3	歓送のことば
4	閉式通告
	選手・役員解散

成年女子・女子総合　表彰式	
期日	令和８年 10 月 14 日 (水) 試合終了後
場所	十和田市高森山球技場
	次　　第
	選手・役員整列
1	開式通告
2	成績発表ならびに賞状授与
3	総合成績発表ならびに表彰状授与
4	歓送のことば
5	閉式通告
	選手・役員解散

少年男子・男女総合　表彰式	
期日	令和８年 10 月 14 日 (水) 試合終了後
場所	プライフーズスタジアム
	次　　第
	選手・役員整列
1	開式通告
2	成績発表ならびに賞状授与
3	総合成績発表ならびに表彰状授与
4	競技会会長挨拶
5	歓送のことば
6	諸旗降納
7	競技会終了宣言
8	閉式通告
	選手・役員解散

十和田市
五戸町
南部町
八戸市

サッカー競技　競技日程

監督会議	(成年女子・少年男子・少年女子)共通	10月1日(木)　16時00分	オンライン

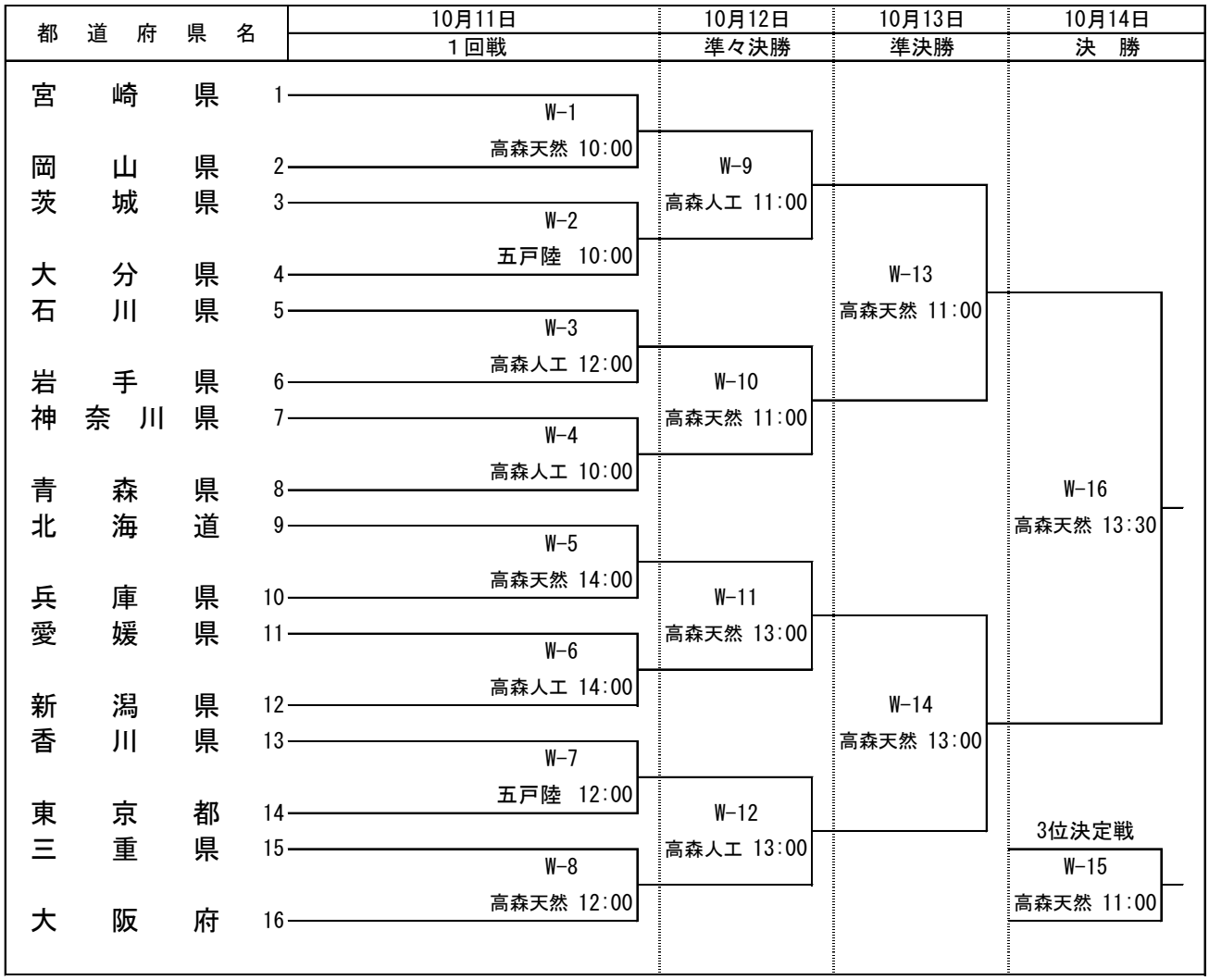
				10月10日(土)	10月11日(日)	10月12日(月)	10月13日(火)	10月14日(水)
十和田市	十和田市高森山球技場(天然芝)	成年女子・少年女子	A		1回戦(成年女子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～ 第3試合 14:00～	準々決勝(成年女子) 第1試合 11:00～ 第2試合 13:00～	準決勝(成年女子) 第1試合 11:00～ 第2試合 13:00～	(成年女子) 3位決定戦 11:00～ 決　　勝 13:30～
	十和田市高森山人工芝多目的グラウンド		B	1回戦(少年女子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～ 第3試合 14:00～	1回戦(成年女子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～ 第3試合 14:00～	準々決勝(成年女子) 第1試合 11:00～ 第2試合 13:00～		
五戸町	ひばり野公園陸上競技場	成年女子・少年女子	C	1回戦(少年女子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～	1回戦(成年女子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～ 準々決勝(少年女子) 第3試合 14:00～	準決勝(少年女子) 第1試合 11:00～ 第2試合 13:00～	(少年女子) 3位決定戦 11:00～ 決　　勝 13:30～	
南部町	ふるさと運動公園陸上競技場	少年女子	D	1回戦(少年女子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～ 第3試合 14:00～	準々決勝(少年女子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～ 第3試合 14:00～			
八戸市	プライフーズスタジアム	少年男子	E	1回戦(少年男子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～	2回戦(少年男子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～	準々決勝(少年男子) 第1試合 11:00～ 第2試合 13:00～	準決勝(少年男子) 第1試合 11:00～ 第2試合 13:00～	(少年男子) 3位決定戦 11:00～ 決　　勝 13:30～
	八戸市東運動公園陸上競技場		F	1回戦(少年男子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～ 第3試合 14:00～	2回戦(少年男子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～ 第3試合 14:00～			
	八戸市南郷陸上競技場		G	1回戦(少年男子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～ 第3試合 14:00～	2回戦(少年男子) 第1試合 10:00～ 第2試合 12:00～ 第3試合 14:00～	準々決勝(少年男子) 第1試合 11:00～ 第2試合 13:00～		

表彰式	
	【少 年 女 子】　10月13日(火)　試合終了後　ひばり野公園陸上競技場
	【成 年 女 子】　10月14日(水)　試合終了後　十和田市高森山球技場
	女子総合表彰式　10月14日(水)　試合終了後　十和田市高森山球技場
	【少 年 男 子】　10月14日(水)　試合終了後　プライフーズスタジアム
	男女総合表彰式　10月14日(水)　試合終了後　プライフーズスタジアム

サッカー競技組合せ表

【 成 年 女 子 】

会 場	A	高森天然	十和田市高森山球技場	B	高森人工	十和田市高森山人工芝多目的グラウンド
	C	五戸陸	ひばり野公園陸上競技場			



【少　年　女　子】

会　場	B	十和田市	十和田市高森山人工芝多目的グラウンド	C	五戸陸	ひばり野公園陸上競技場
	D	南部町	ふるさと運動公園陸上競技場			

都道府県名	10月10日 1回戦	10月11日 準々決勝	10月12日 準決勝	10月13日 決勝
広島県 1	YW-1 南部陸 12:00			
新潟県 2		YW-9 南部陸 14:00		
大阪府 3	YW-2 高森人工 12:00		YW-13 五戸陸 13:00	
高知県 4				
埼玉県 5	YW-3 高森人工 14:00			
静岡県 6		YW-10 五戸陸 14:00		
福岡県 7	YW-4 南部陸 14:00			
福井県 8				YW-16 五戸陸 13:30
福島県 9	YW-5 南部陸 10:00			
神奈川県 10		YW-11 南部陸 10:00		
千葉県 11	YW-6 高森人工 10:00			
北海道 12			YW-14 五戸陸 11:00	
青森県 13	YW-7 五戸陸 10:00			
徳島県 14		YW-12 南部陸 12:00		
兵庫県 15	YW-8 五戸陸 12:00			3位決定戦 YW-15 五戸陸 11:00
鹿児島県 16				

サッカー競技組合せ表

【 少 年 男 子 】

会 場	E	プラスタ	プライフーズスタジアム	F	八戸東陸	八戸市東運動公園陸上競技場
	G	八戸南郷	八戸市南郷陸上競技場			

都道府県名		10月10日 1回戦	10月11日 2回戦	10月12日 準々決勝	10月13日 準決勝	10月14日 決勝
静岡県	1		YM-9 八戸南郷 10:00			
和歌山県	2			YM-17 八戸南郷 11:00		
岡山県	3	YM-1 八戸東陸 10:00				
富山県	4		YM-10 八戸東陸 12:00		YM-21 プラスタ 11:00	
長崎県	5	YM-2 プラスタ 12:00				
京都府	6					
茨城県	7	YM-3 プラスタ 10:00				
青森県	8		YM-11 プラスタ 10:00			
佐賀県	9	YM-4 八戸南郷 10:00		YM-18 プラスタ 11:00		
秋田県	10					
岐阜県	11		YM-12 八戸東陸 10:00			
高知県	12					YM-24 プラスタ 13:30
千葉県	13		YM-13 プラスタ 12:00			
長野県	14			YM-19 プラスタ 13:00		
福岡県	15	YM-5 八戸東陸 12:00			YM-22 プラスタ 13:00	
大阪府	16		YM-14 八戸南郷 12:00			
北海道	17	YM-6 八戸南郷 12:00				
山形県	18					
新潟県	19	YM-7 八戸東陸 14:00				
鳥取県	20		YM-15 八戸東陸 14:00			
鹿児島県	21	YM-8 八戸南郷 14:00		YM-20 八戸南郷 13:00		
山梨県	22					
神奈川県	23		YM-16 八戸南郷 14:00			3位決定戦 YM-23 プラスタ 11:00
愛媛県	24					

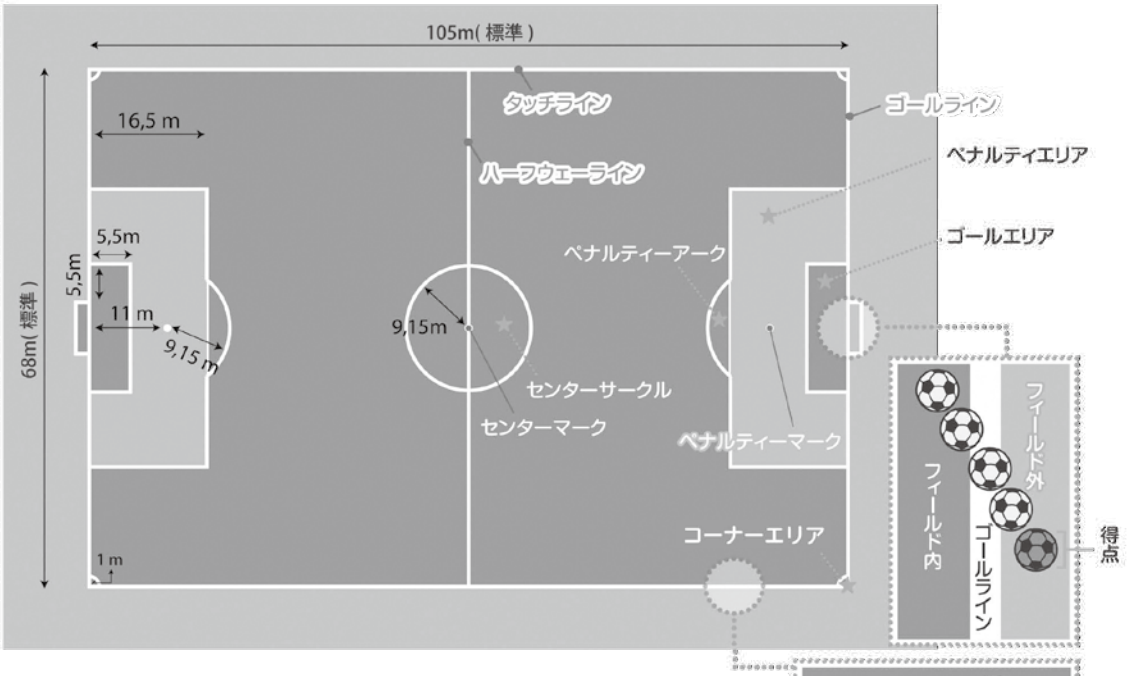
ルールを知って サッカーを見よう!

11人制

サッカーのルールは、競技者の安全を守り、プレーをする人も、見る人も
サッカーを楽しめるよう、競技を公平に行われることを求めています。

公益財団法人日本サッカー協会

フィールドについて



ボールアウトオブプレー

○ ボールがラインを完全に越えてフィールドの外に出たとき
○ 主審が笛を吹いて、プレーを止めたとき
プレーヤーは、一度、プレーを止めなければならない。
(ボールアウトオブプレー)



用具について

○ ジャージー(シャツ)、ショーツ(パンツ)、ストッキング、すね当て、靴(シューズ)は必須。
○ ゴールキーパーはフィールドプレーヤーと異なる色のユニフォームを着用する。
○ 自分自身や他の競技者の危険となる用具を身につけてはならない(安全の確保)。
ただし、スポーツメガネやヘッドギアを主審が安全であると認めれば
身につけることができる。



※このリーフレットでは、「競技規則 (LAWS OF THE GAME)」の用語を分かりやすい言葉で説明しています。

ルールを知って
サッカーを見よう!

主審のシグナル

主審が試合中に示すさまざまなシグナルです。目の前の試合で確認してみて下さい。

直接フリーキック

ファウルとして笛を吹いたら、
ファウルされたチームの
攻める方向に片手を上げ、
フリーキックを示します。



間接フリーキック

フリーキックが間接フリーキックで
あることを示すために片手を上げます。
ボールがゴールに直接入っても
得点は認められません。



アドバンテージ

ファウルを認めつつも、
アドバンテージを適用し、
プレーを続けさせます。



警告

競技者を警告するために
イエローカードを示します。



退場

競技者を退場させるために
レッドカードを示します。



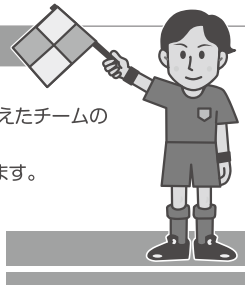
副審のシグナル

試合中に副審は旗を使っていろいろなシグナルを出しています。
副審が旗を使って何を知らせているのか、確認してみて下さい。

ボールがタッチラインを越えて フィールドの外に出た時のシグナル

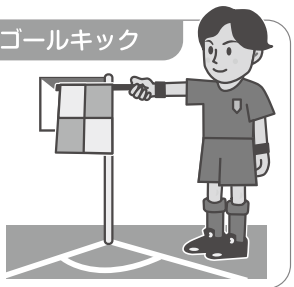
スローイン

スローインを与えたチームの
攻める方向に
フラッグを上げます。



ボールがゴールラインを越えて フィールドの外に出た時のシグナル（プレーの再開方法）

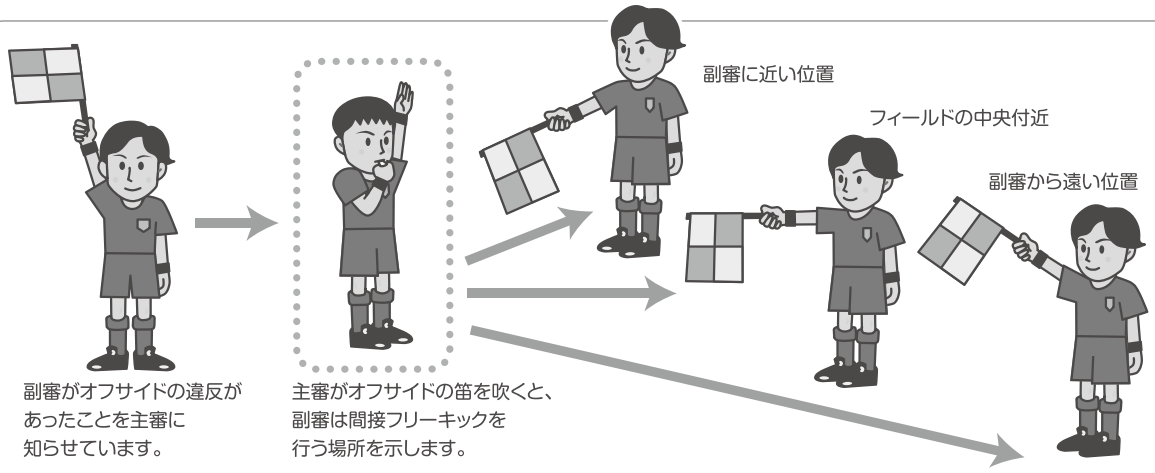
ゴールキック



コーナーキック



オフサイドの違反を主審に知らせ、再開の場所を指示します



副審がオフサイドの違反が
あったことを主審に
知らせています。

主審がオフサイドの笛を吹くと、
副審は間接フリーキックを
行う場所を示します。

オフサイドについて

オフサイドは、攻撃側チームの競技者が得点をするために、守備側チームのフィールド内で待ち伏せすることを防ぐために定められたルールです。

オフサイドの違反となるポジションとは・・

＜タイミング＞

攻撃側競技者 FW1 が、ボールに触れる　あるいは

プレーした瞬間に、

＜位置＞

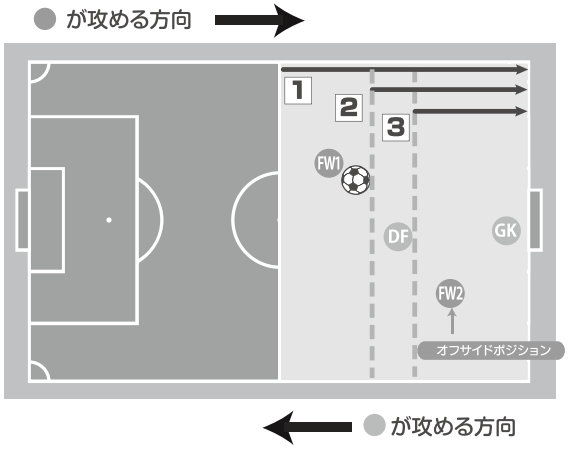
味方競技者 FW2 が、

1 守備側チームのフィールド内

2 ボールより守備側チームのゴールラインに近く

3 後方から2人目の守備側競技者よりゴールラインに近くにいることです。

→オフサイドポジション



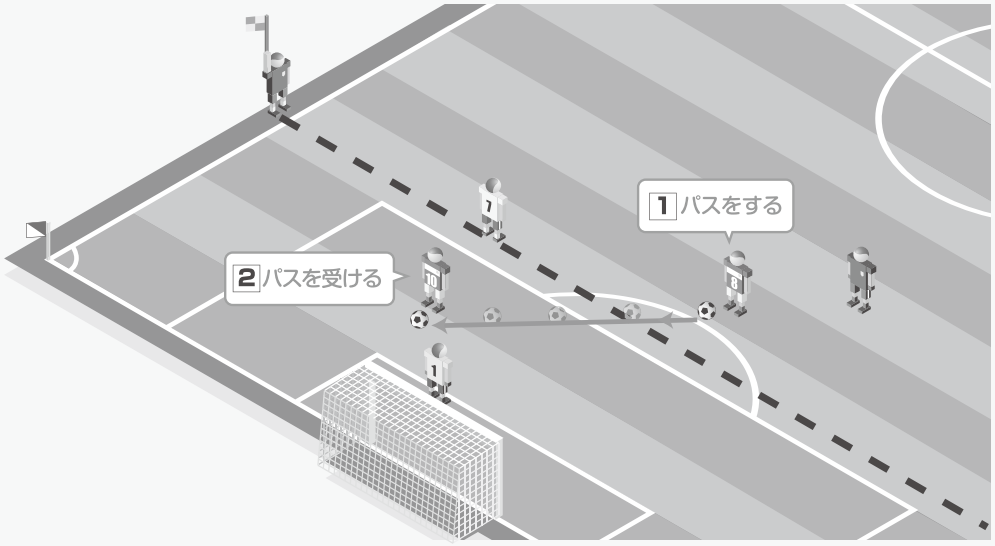
※オフサイドポジションにいること自体は違反ではありません。
また、ゴールキック、コーナーキック、スローインでボールを受ける際もオフサイドの違反にはなりません。
オフサイドの違反が成立するのは、以下の①～③の3つのうちのどれかが成立した場合です。

① プレーに干渉する　**② 相手競技者に干渉する**　**③ その位置にいることによって利益を得る**

① プレーに干渉する

味方競技者がパスする瞬間にオフサイトポジションにいた競技者が、パスを受けた場合、オフサイドの違反になります。

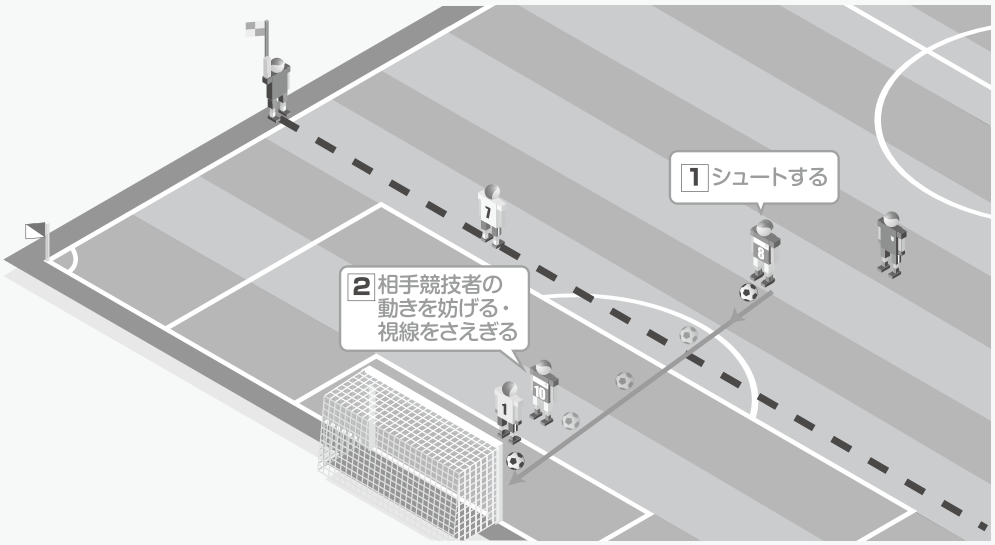
は、後方から２人目の守備側競技者



ルールを知って
サッカーを見よう!

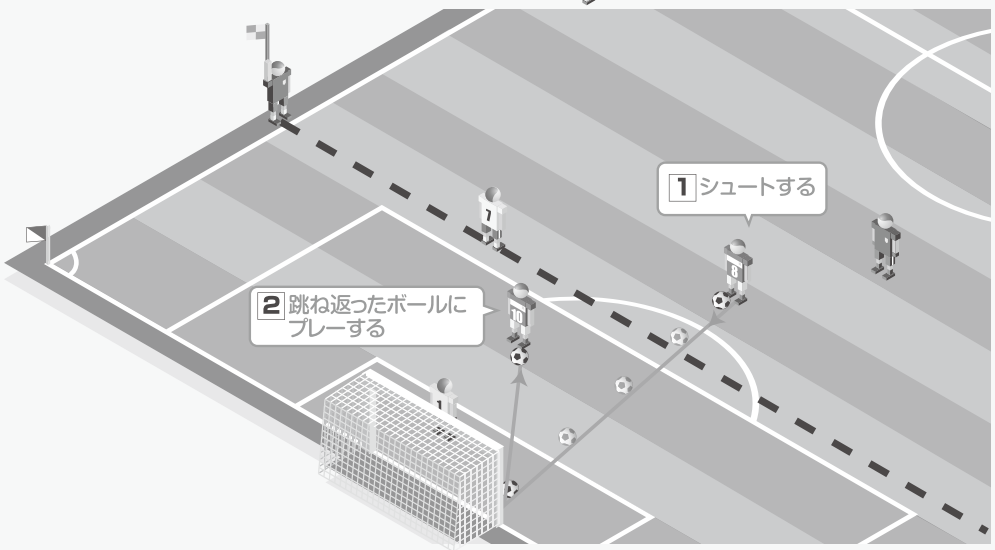
② 相手競技者に干渉する

味方競技者 がシュートする瞬間にオフサイドポジションにいた競技者 が、
相手競技者 がプレーできないように邪魔した場合、オフサイドの違反になります。
は、後方から２人目の守備側競技者



③ その位置にいることによって利益を得る

味方競技者 がシュートする瞬間にオフサイドポジションにいた競技者 のところに、
シュートしたボールがゴールポストから跳ね返り、その競技者 がボールをプレーした場合、
オフサイドの違反になります。
は、後方から２人目の守備側競技者



◆都道府県別参加人数

種別	成年女子		少年男子		少年女子	
都道府県名	参加	人数	参加	人数	参加	人数
北海道	○	15	○	16	○	15
青森県	○	15	○	16	○	15
岩手県	○	15				
宮城県						
秋田県			○	16		
山形県			○	16		
福島県					○	15
茨城県	○	15	○	16		
栃木県						
群馬県						
埼玉県					○	15
千葉県			○	16	○	15
東京都	○	15				
神奈川県	○	15	○	16	○	15
山梨県			○	16		
長野県			○	16		
新潟県	○	15	○	16	○	15
富山県			○	16		
石川県	○	15				
福井県					○	15
静岡県			○	16	○	15
愛知県						
三重県	○	16				
岐阜県			○	16		

種別	成年女子		少年男子		少年女子	
都道府県名	参加	人数	参加	人数	参加	人数
滋賀県						
京都府			○	16		
大阪府	○	15	○	16	○	15
兵庫県	○	16			○	15
奈良県						
和歌山県			○	16		
鳥取県			○	16		
島根県						
岡山県	○	15	○	16		
広島県					○	15
山口県						
香川県	○	15				
徳島県					○	15
愛媛県	○	15	○	16		
高知県			○	16	○	15
福岡県			○	16	○	15
佐賀県			○	16		
長崎県			○	16		
熊本県						
大分県	○	15				
宮崎県	○	16				
鹿児島県			○	16	○	15
沖縄県						
計	16	243	24	384	16	240